

令和4年8月1日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫

令和4年度第1回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「令和4年度第1回教育課程編成委員会報告」を公表します。

1 委員名簿

委員長:山崎芙美夫委員 副委員長:美入昌男委員

(1)外部委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会 評議員
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 理事長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野 麻紀	十文字学園女子大学 人間生活学部 幼児教育学科 准教授

(五十音順)

(2)学校側委員

山崎 芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷 るり子	同 教務部学科主任
真貝 浩二	同 事務部
相川 怜美	同 教務部

2 教育課程編成委員会開催状況

- (1) 日時:令和4年6月23日(木)午前 11 時 25 分～12 時 00 分
- (2) 会場:越谷保育専門学校 201教室
- (3) 参加委員:上記外部委員5名、学校側委員8名

3 委員会次第

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)委員長選出

(4)協議

ア 教育課程編成委員会の進め方の説明

イ 令4年度教育課程編成方針

ウ 授業見学をとおしての授業内容等の工夫及び改善に向けて

(5)その他

ア 次回の開催予定

イ その他

(6)閉会

4 第1回委員会議事要録

別紙のとおり

令和4年8月1日

- 1 委員の紹介 省略
- 2 校長挨拶 省略
- 3 議長選出 山崎校長
- 4 協議事項
 - (1) 令和4年度教育課程編成
 - (2) 授業見学をとおしての授業内容等の工夫及び改善に向けて
- 5 外部委員からの提言と質問事項等
 - (1) 令和4年度教育課程の変更について（東海林学科主任より説明）
 - ・ 教科に関する科目を「領域」に変更する。（5領域の区分に変更）
 - ・ 保育現場のICT導入化に伴い、授業に取り入れていく。

(学校) 今年度の1年生より新しいカリキュラムになった。大きな変更点は、今までの教科に関する科目が領域及び保育内容の指導法に関する科目に変更した。

※学生便覧 P58.59. (←現2年生) p58 の教科に関する科目が、今年度 p60 (←現1年生) 領域及び保育内容の指導法に関する科目に変更されたことを確認。

教科に関する科目はすべて無くなり、領域に関する専門的事項という項目に変更された。教科に関する項目は、領域に関する専門的事項と、保育内容の指導法に変更された。

幼稚園の教員免許で、幼稚園で何をどのように指導するかを考えた時に、この「何を」の部分が領域に関する専門的事項、「どのように指導するか」が保育内容の指導法という考え方で変更された。

今までの教科に関する科目から、より幼児教育に適した項目に変更した。経過措置期間はあったが、本校は今年度1年生から変更した。

今年度中にどこの養成校も変更することになっている。以上変更点です。

(学校) 専門学校でも 25校あるうち、まだ教育課程変更が終わっていないのが 7校あり、本校に問い合わせがある。なかなか大変な作業。領域に関する専門的指導により力をいれていく。
- (2) 授業内容等（授業見学の感想等）の改善・工夫に向けて
(委員) 授業見学、わくわくしながら参加した。いつも思いますが、みなさん本当にまじめな学生が多く、でも固いわけではなく、柔らかく、話しながら表現の授業等、興味深く拝見した。
『子どもの文化と言葉』の授業も、子どもの頃に豊かな経験をしている学生が多い。そうでないとあのような形でなかなか結び付かないだろうと感じました。子どもの頃に見たり聞いたりした経験を振り返りながら結び付けている。先生方も工夫をされて、学生の興味関心をひくような授業準

備の時間をかけている。授業で、伸び伸びと経験をうまく活かして実習に結び付けられると良い。個人的に興味がある。これだけ色々な学びをしているということで大変なこともあると思いますが、自信をもって実習に取り組んでほしい。退学に結び付いてしまうのではなく、実習、そして現場での仕事に、学生たち自身がどのように結び付けているのか非常に興味をもった。学生自身がやって楽しかったという経験をもとに、子どもたちに提供できるようになってほしい。

(委員)『言葉』の授業も学生が委縮することなく、学生たちが思いついたらすぐに発言するところから活気が見られた。思ったときに発言できる、先生との関係性であったり雰囲気だったりから学生と先生方の関係性から日々の様子が伺えた。体を伏せている学生がいることが本当に残念です。実践を取り入れて、現代に合わせた授業を行っていて、先生の工夫と準備の大変さもうかがえ、本当にもったいない。私も受けたいな、楽しそうだなと本当に思う。気になることとして、携帯電話を置いておくことは OK という形なのでしょうか。

(学校)教科担任の許可を得て、必要に応じて使用することになっている。

(委員)図工の時は、携帯電話をビニールに入れて使うことになっていた。

他の授業においては、携帯電話が目の前にあると学生は触りたくなくなってしまふ。2年前くらいは掲示等でそういった指導をされていたと記憶している。掲示で授業により集中できたかと思いましたが。携帯を出している学生も意見を出したり、友達との対話もしたり、全部が全部携帯電話がということではありませんが、前に取り組んでいたことも周知しても良いのではないかと思います。学習に不要なものを机の上に置かないように掲示等も必要なのではないか。授業には参加しているが、マナーとして気になりました。それから対面授業の大切さを感じた。実習生の受け入れをしていると、対面の授業を行ってこなかったために、実習ノートの書き方を知らない学生等もいます。対面だからこそ、分からないことをすぐに聞ける関係性を築けることもある。実習受け入れの際に大切さをとても感じている。人とのかかわりを生かして授業に取り組んでほしい。

(学校)携帯電話等の指導も引き続き行っていく。

(委員)1番感じたのは『教育相談の方法の授業』で、子どもも大人も同じで、自分の思うようにいかないと落ち込んだり、大人でも結構多いのではないかと。学生のみなさんは、よくできた回答で、将来良い先生になってもらいたい。

『造形』の授業では60kgの粘土を使用して驚いた。重さを感じられることがとても良い。園で実践させてみようと感じた。施設も計画性をもってきれいに、充実している。学生さんの雰囲気も明るくなって積極的になっている。我々が授業を見に行っても緊張することなく、発表をしている姿、また自然な態度に見えた。

(委員)歌いながらピアノを弾く際、スマートフォンをしているので、本当に歌っているかわからない。実際の姿が見られるとよいのではないかと。

またグループでもできたらよいのではないかと。

『造形』は、大人の体重と同じくらいの重さの粘土を使用していた。現場に出たときに「私は、こんなことやったんだよ。」と言える。保育者は泥粘土は嫌がるけど、教材の与え方も考えるきっかけとなった。普通は油粘土が多くなるので、教材の与え方が勉強になった。

『言葉』の授業。経験をもとに、家庭の中での経験が必要な授業では、経験がない学生は、それを知って、今度は子どもたちに伝えていくことが必要だ。

(学校) ピアノに関しては、グループの発表もあります。

(委員) それぞれの授業を楽しませていただいた。参加したくなってしまう。

『造形』の授業はとても楽しかった。現場にどう使っていけるかは別の話で、学生が楽しいと思えることが大切。

『言葉』の授業では「擬人法」という言葉を使うと大人の世界になってしまうように感じた。説明になってしまう。「なんで動き出してしまうだろう？」と問いかけから、こどもたちのように世界観を広げてほしい。

「この世界では言葉が動き出すのかな？」少しあそびがあってもよいのではと思いました。どうしても先生たちは説明をする、こなしてしまうというのではなく、遊んでしまうことも時には大切と思いました。

(学校) 質問がありましたらお願いします。先生方それぞれ工夫をして授業をする。学生も、先生方も工夫を積み重ねている。良い方向で進んでいる。

発問に対する回答も、いつも真面目に一生懸命答える姿が見られている。

(委員) 教職に関する科目の説明について質問。ピアノに関する科目は減っていないのか。

(学校) カリキュラムの変更の際、ピアノの科目が1科目減っている。

令和4年度教育課程の変更について（東海林学科主任より説明）

- ・教科に関する科目を「領域」に変更する。（5領域の区分に変更）
- ・保育現場のICT導入化に伴い、授業でも取り入れていく。

6 閉会 協議誠にありがとうございました。協議でのご意見、ご提案、ご提言を今後の授業編成及び学校運営に活かします。

次回は11月中旬に実施します。